

議会に望むこと

鏡石町議会では「開かれた議会」を目指し、町民のみなさんの生の声をお寄せいただいています。今回は、絵本作家の菊地清さんからいただきました。



菊地 清さん

「現場」で学ぶ

私が鏡石町に移住して今年で20年になりますが、豊かな田園と桜並木、里山の風情。創作意欲をかきたてる四季の移ろい。そして「牧場の朝」が流れるのどかな時間。当初のイメージと何ら変わりなくここが我が故郷であることに満足している昨今です。

そのうえで、議会への発言の機会を得ましたので、二点申し上げます。

第一点は福祉についてです。本町のみならず、少子化・高

齢化が加速し、施設や体制の見直しなど、政策の質の向上が問われている今、議員の方々に、関連施設での「体験実習を」ご提案いたします。

具体的には、行政区内の特養・デイサービス、グループホーム、授産所、幼・保育所等で職員との「協働体験」を行うというものです。

従来の「視察」では見る側も見られる側も形式感があり実態を共有することは困難です。一定の時間、職員と同じ目線で介護や保育を体験し、生身の人間同士のスキンシップによってのみ見えてくる大変さや喫緊の課題などを具体的に把握するのが目的です。

こうした体験によって得た施設の不備、職員への負荷や待遇、運営の改善点など、鏡石流の福祉行政のヒントは、きっと見つかると思います。

たとえば、毎月一議員が一施設で数時間実習し、12議員のレポートを既存の部会を横断した形でとりまとめ「福祉に活かすふれあい提言」として、福祉政策の根本議論に反映できればと思います。

議員各位の多忙さは十分に



菊地さんの作品

理解しながらも、あえて実のある福祉の実現のためにご賛同いただければ幸いです。

第二点は、中心市街地から遠い地域に暮らす人たちの交通手段の確保という問題です。

最近とくに多い高齢者による交通事故や、移動のアシを待たない老人の買い物難民・受診難民化といった問題ともリンクしますが、こうした交通弱者の行動をサポートする巡回バス等の運行対策です。

遠隔地であるがゆえに町の祭りやイベント等への参加もできない。あるいは図書館や公民館へ行くこともままならない現状では、行政サービスの平準化は望めません。交通

編集後記

地方自治は首長と議員の二元代表制である。だが、議会審議は形骸化し首長の追認機関と揶揄されることもあり得ます。

そうなる議会には住民に見放されてしまいます。極論ですが、地方議会はいらないとか、定数を減らせという議会不要論まで出てしまいます。

民主主義の原則は多数決です。しかし少数の意見も尊重しなければなりません。

一億総活躍、地方創生の時代、議会と町長は互いの役割を尊重しつつ共通の目標である町民福祉の向上や町政の進展に取り組むべきである。

特に議会は、活発な議論を通して多様な民意を反映させなければなりません。そのためには議員は研鑽を積まなければなりません。

そうでなければ丸山眞男氏が言っているように「民主主義にあぐらをかいて」といって民主主義はほろびる」といったことになりかねません。

発行責任者

議長 渡辺 定己

広報編集委員会

委員長 小林 政次
副委員長 木原 秀男
委員 橋本 喜一
委員 古川 文雄
委員 菊地 洋
委員 長田 守弘



2015 KFB・東邦銀行



CM大賞表彰式にて

鏡石ブランド発信 CM大賞受賞

地域の魅力を盛り込んだCMの完成度を競う「ふくしまの元気！応援CM大賞2015」において鏡石町の作品が見事大賞を受賞しました。コンクールには県内36市町村と県が参加。当町の作品「フシギなイキイキ」がユーモアとテンポの良さで評価されました。このCMは年間120本福島放送で無償放送されます。町のブランドが電波によって発信されます。



魅力あるまちづくり実行委員会

かがみい 議会だより

No. 159
平成28年2月
発行 福島県鏡石町議会
編集 議会広報編集委員会
〒999-0401 福島県岩手郡鏡石町
不時沼345
電話0248(62) 2110
印刷 (株) 永山印刷